

発掘成果をふりかえって 2010

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の位置

2010年の発掘調査のおもな成果を豊富な写真と共に紹介します。

京都市動物園内で、平安時代後期に建立された法勝寺八角九重塔の基礎の地業跡が見つかり、関心を集めました。これで塔の正確な位置と規模、地下構造が解明されるという大きな成果を得ました。

他にも、千本丸太町交差点の北西で大極殿跡の基壇北西部にあたる掘り込み地業が見つかりました。



1 村内遺跡 右京区常盤出口町

遺跡北東部で縄文時代の土坑、古墳時代後期から飛鳥時代・室町時代以降の建物跡などを検出した。縄文時代の土坑(矢印)出土の深鉢2点(写真上)は、縄文時代中期末の北白川C式土器と呼ばれるもので、本遺跡において縄文時代の遺構を確認したのは初めてである。



2 法性寺跡 京都市東山区福稻上高松町

工場敷地内で、弥生時代の溝・方形周溝墓・土坑を検出した。他に、古墳時代の竪穴住居1棟、平安時代の墓1基・落ち込み・土坑・溝、鎌倉時代の溝・土坑、江戸時代の土坑などを検出した。



3 平安宮朝堂院大極殿跡 中京区聚楽廻東町

平安宮朝堂院大極殿跡の調査で建物基礎が見つかった。大極殿基壇北西部に該当し、創建時の大極殿の基壇掘り込み地業の跡と考えられる。推定地業の深さ1.5mのうち、約0.7mが残存していた。



4 灰方窯跡 西京区灰方町

道路新設にともなう調査で、平安時代前期の窯跡を2基発見し、新たな遺跡となった。斜面を掘り込んだ半地下式で天井部は崩落している。灰原からは緑釉陶器の素地や須恵器が多数出土した。写真は1号窯。



5 法勝寺跡 左京区岡崎法勝寺町(京都市動物園内)

六勝寺の塔頭寺院である法勝寺の八角九重塔の基礎部分が見つかった(写真右上・全景)。砂層の軟弱な地盤を改良するために石と粘土を突き固めた掘り込み地業と呼ばれるものである(写真左)。塔を取り囲む池の洲浜を検出し(写真右)、塔の屋根に葺いたと考えられる瓦が多数出土した。瓦当中房に九重塔を示す「九」銘の蓮華文軒丸瓦(写真右上・瓦)や、梵字種子文軒瓦、五輪塔文押印平瓦も見つかっている。



6 北野廃寺 北区北野紅梅町

北野廃寺の17次調査で、応仁の乱後の室町時代後期の門遺構と溝を検出した。門は幅2mで、近隣に屋敷の存在が想定される。また、奈良時代の寺域北限の溝も見つかっている。



7 二条殿御池城跡 中京区龍池町

織田信長が邸宅を構えた二条屋敷の跡で、安土桃山時代の湯屋のかまど跡が2基と井戸が見つかった。かまどの大きさは幅1.1m・奥行き1.7mで、上に鉄釜を据え、すのこを用いる蒸し風呂であったとみられる。

